

第1学年〇組 道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日(〇)第〇校時

場 所 1年〇組 教室

児童数 〇〇名

授業者

1 主題名 親切な心で 内容項目 [B 親切、思いやり]

2 ねらい 親切にされた時の登場人物の心情の変化について考えていくを通して、親切にすることのよさに
気付き、身近な人たちに温かい心で接し、親切にする心情を育てる。

教材名 「はしのうえのおおかみ」(出典:「新しい道徳」東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本時は、小学校第1学年及び第2学年の内容項目「親切、思いやり」に関するものである。これは、よりよい人間関係を築く上で求められる基本的姿勢として、身近にいる人、様々な人々との触れ合いの中で、相手のことを考え、優しく接することができるようにすることをねらいとしている。

この内容項目について、他の学年との関連をまとめると以下のようになる。

小学校1学年及び 第2学年	小学校3学年及び 第4学年B	小学校5学年及び 第6学年B	中学校 B
身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	相手のことを思いやり、進んで親切にすること。	誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。	思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により人々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

親切、思いやりとは、自分のことだけを考えたり、自分の思いだけを主張したりするのではなく、相手に対しての思いやりの心をもって人のためにつくすことである。また、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。そのために、相手の存在を受け入れ、相手のよさを見出し相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりすることを通して励ましや援助をする姿勢が求められる。また、単に手を差し伸べるだけでなく、時に相手のことを考えて温かく見守ることも親切な行為の表れであり、相手のことを親身になって考えようとする態度を育てることが期待されている。日々の学校生活の中で関わりのある様々な人と直接的に多様な関わり合いをもてるようにすることが求めら

れる。その上で、相手の立場を考えたり、相手の気持ちを思いやったりすることを通して、思いやりや親切な行為の意義を実感できる機会をつくっていくことが重要である。

低学年児童の段階においては、家族だけでなく家の周りの人や学校の人々、友達などとの関わりが次第に増えてくる。発達的特質から自分中心の考え方をすることが多いが、様々な人々との関わりの中から、相手の考えや気持ちに気付くことができるようになる。そこで、相手の立場を考え思いやることの大切さを感じられるように、身近にいる様々な人々との触れ合いの中で、相手のことを考え、優しく接することができるようにしたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

相手のことを考え優しく接することができるようにするために以下のような指導を行ってきた。

1学期の国語科の「はをへをつかおう」の学習では、は・を・へを使い文章を作る課題につまずいている子に親切に声をかけている児童を称賛した。その結果、児童がお互いに声をかけ助け合うよさを感じられるようになり、問題に対し悩んでいる友達に寄り添い「こうやるんだよ。」と親切に教え協力して楽しく学習に取り組んでいた。

日常生活では、空き時間の会話や授業中の話合いを通して、児童同士の距離感が縮まり交友関係を深めている。友達が困っている時には、「どうしたの？」と声をかけ寄り添う姿が見られ、友達への思いやりの気持ちをもちはじめている。その一方で、友達に対して強い言動をしまったり、自分勝手な言動をしまったりする児童がいる。当番の仕事では、自分の仕事に進んで活動する児童もいるが、別のことに夢中になり、忘れる児童もいた。その児童に対して強い言葉で伝えてしまうといった実態がある。

そこで、自分のことだけを考えるのではなく、相手の気持ちを考えて思いやりのある行動を受けたときの嬉しさを感じられるようにしていく。そして、親切にすることのよさや嬉しさを感じながら、どんな人に対しても親切に思いやりのある行為をしようとする心情を育てていきたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

主人公のおおかみが、一本橋で出会ったうさぎ、きつね、たぬきたちを相手に面白がって意地悪を続けるが、大きなくまに親切にされたことで、親切にすることの素晴らしさに気付き、自分の行為を振り返り、優しい心で親切にするという内容である。

低学年の児童にとって、思いやりをもち相手の立場に立って考え行動することはとても難しいことである。そのため相手のことを考えず自分中心の考えで行動し友達に嫌な思いをさせてしまうことがある。意地悪を楽しんでいる気持ちを考えさせるために、わざと親切にしないおおかみの気持ちを考えさせる。それと同時に、いじわるをされたうさぎたちの気持ちと自分の生活を関連づけて考えることで、意地悪をされた側の気持ちや、友達の気持ちに気付かせていく。また、親切にされたときの気持ちを考えるために、おおかみの心情の変化から親切にすることの大切さや喜びに気付かせ、これからどのように行動することがより良い人間関係につながっていくのかを考えさせていきたい。

そのために、本時は、深化を意図して授業を行い以下の流れに沿って考えを深めることができるようにしていく。

親切にすることの難しさを考えさせるために、うさぎたちに意地悪をするおおかみに共感させる。また、その行動に対して相手がどう思うのか、どんな気持ちになるのかに気付かせる。

親切にされた時の気持ちを考えさせるために、役割演技を取り入れ大きなくまに親切にされ、くまの後ろ姿を見送るおおかみに自我関与して考えさせる。

誰かのために親切な行動をしたり、思いやりをもって行動したりすることの良さや嬉しさを実感させるために、おおかみがうさぎに親切な行動をしたときの気持ちを考えさせ、これからの生活につなげていく。

4 指導の工夫

① 学習課題の明確化

導入では、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図るために、アンケートを活用し親切にされたときの自分の経験を想起させ課題に繋げていく。

② 板書の工夫

物語の流れや考えなどが視覚的に分かりやすくなるように板書はできる限り必要な場面絵や文言だけにおさえ、発言は分かりやすくまとめる。

③ 役割演技

おおかみの心情を思い浮かべやすくするために、児童に役割演技をさせる。役割演技を取り入れ、親切にしてもらった時の心情を感じられるようにする。

④ ワークシートの工夫

振り返りでは、書く活動を通して、ねらいとする道徳的価値について考えを深めさせる。親切にされた喜びだけでなく教材を通して親切にすることの喜びやよさ、大切さも感じることができるようになる。

⑤ 指導観シートの活用

指導観シートを作成、活用し、教材を通して何を考えさせるか、どういう発問をすることで児童が主体的に考えることができるのかを吟味し、明確な指導観のもとに授業を構想する。

5 学習指導過程

段階	学習活動(主な発問)	・予想される児童の発言	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 「親切にしてもらったこと」について考える。 ○友達などにやさしくされて嬉しかったことはありますか。 ○やさしくされたときどんな気持ちですか。	・一緒に遊ぼうと言ってくれた。 ・無くした物を探してくれた。 ・怪我をしたときに保健室に連れていってくれた。 ・うれしい。 ・またしてほしい。 ・自分もしてあげたい。	・身近な学校生活の中で友達に優しくされたことについてアンケートを活用し、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。

児童に寄り添いながら行う課題提示

T: この前道徳アンケートやったね。友達にされてうれしかったことはありますかというアンケート、覚えていますか？

C: うん、覚えてる。

T: その中からいいなと思ったものを発表します。

T: 1つめ。ひとりのときに誘ってくれた。

C: ああ～。あるある。

T: 2つめ。分からないときに教えてくれた。

C: あるある。

T: 3つめ。けがをしたときに声をかけてくれた。

C: あ、それあるなあ。あるある。

T: けがしたときに声をかけてもらったことがある人いますか？

C: あるある。

T: 保健室について行ってくれた優しい人もいたよ。このように優しいことをしてもらったとき、どんな気持ちになる？

C: うれしい。

T: うれしいよね。でも、うれしい以外にも出てくるかもしれないよね。今日は、やさしくされるとどんなきもち？について考えていこうと思います。

やさしくされるとどんなきもち？

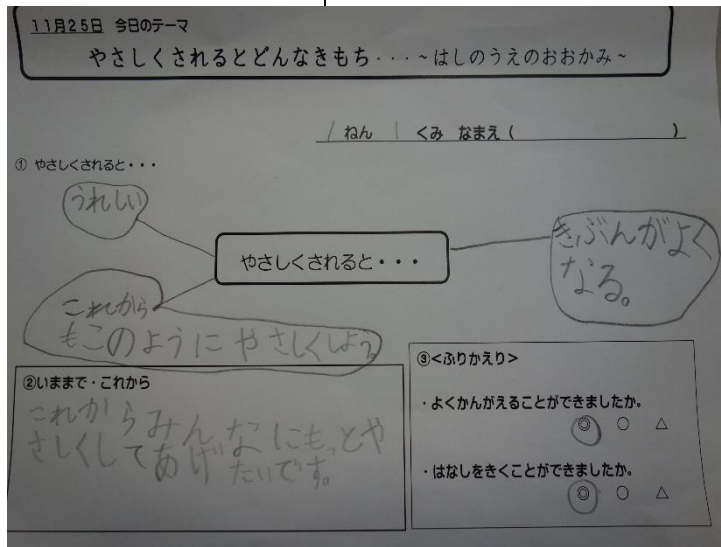
2 教材「はしのうえのおおかみ」を読んで話し合う。

・本時は、教材を通じて「やさしくされると、どんな気持ちになるのか。」について考える事を伝える。

- ・ある一本橋を渡ろうとしたうさぎ、きつね、たぬきに主人公のおおかみが、面白がって「こらこら、もどれもどれ。」と意地悪を続ける。
- ・ある日おおかみは、くまに親切にされ今までの自分の行為を振り返るのであった。

<p>展開</p>	<p>(1)うさぎ、きつね、たぬきに「こらこら、もどれもどれ。」と言ったおおかみは、どんな気持ちだったでしょうか。</p> <p>(2)くまの後ろ姿を見送った時、おおかみは、どんなことを考えていたでしょうか。</p>	<p>・俺が先だからどけ。 ・俺は強いんだぞ。 ・楽しいな。 ・面白いな。 ・これからも続けよう。</p> <p>・くまさんありがとう。 ・くまさんは優しいな。 ・みんなに悪いことをしてしまったな。 ・僕もくまさんみたいに優しくしよう。 ・余計なことをしないでくれ。</p>	<p>・自分より弱い動物たちに意地悪して楽しむおおかみに共感させる。また、意地悪をされている動物たちについてもふれ、考えさせる。</p> <p>・おおかみがくまに出会った場面から役割演技を行う。くま役と、おおかみ役を児童が行う。</p> <p>・親切にされた時の気持ちを考えさせるために、おおかみに自我関与して考えさせる。</p> <p>・役割演技を行い、実感を伴って考えさせながら、自分事として考えられるようにする。</p> <p>☆友達の見解や役割演技を通して、気付いたことや考えたことを伝えようとしている。 (発表、つぶやき、表情、役割演技)</p>
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 役割演技と問い返し </div>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>(役割演技1)</p> <p>T: 実際に橋を渡らせてもらってどんなきもちだった?</p> <p>C: うれしかった。</p> <p>T: どうしてうれしかった?</p> <p>C: 渡らせてくれたから。</p> <p>(役割演技2)</p> <p>T: 実際にはしを渡らせてもらってどんな気持ちだった?</p> <p>C: 他のみんなにも熊さんみたいにやってあげればよかったな。</p> <p>T: 今までの自分がよかったのかな?</p> <p>C: 首を振る</p> <p>T: 今までの自分はよくなかったなって思ったんだね。今実際にやってもらったんだけど、見ていた人たちはどう思った?</p> <p>C: 今度からこんなことないようにしよう。</p> </div>			

	<p>(3)うさぎを抱き上げ、後ろにそっと下ろした時、おおかみはどんな気持ちだったでしょうか。</p> <p>3 学習課題について考えをもつ。</p> <p>○やさしくされるとどんな気持ちですか。</p>	<p>・うさぎさんがよろこんでくれたよかったです。</p> <p>・やさしくするといい気持ちだな。</p> <p>・またやさしくしてあげよう。</p> <p>・やさしくすることはいいことなのだな。</p> <p>・うれしい。</p> <p>・こころがあたたかくなる。</p> <p>・もっと友達にしてあげたい。</p>	<p>・おおかみに親切にしてもらった時の動物たちの気持ちにも触れて、お互いがいい気持ちになったことに気付かせる。</p> <p>・これまでの学習から、親切にするこの素晴らしさや大切さに気付き、これからの生き方につなげていく。</p> <p>☆友達とこれから関わっていく中で大切なことは何かについて、自分の生き方と関連付けながら考え、ワークシートに書いている。</p> <p>(発表、つぶやき、表情、ワークシート)</p>
<p>終末</p>	<p>4 教師の説話を聞く。</p>		<p>・親切にされて嬉しかったことについて話す。</p>



6 他の教育活動との関連

・特別活動

「親切の木を作ろう」では、日々の学校生活の中で友達に優しくされたことを全体で共有し、発表する中で優しくすることのよさを見つけ、みんなで一本の親切的な木を作り上げこれからの生活につなげていく。

7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

・親切について、友達の発表や役割演技を通して多様な視点からよさや大切なことについて考えている。

【道徳的諸価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

・親切にすることの大切さを、自分との関わりの中でとらえ考えている。

8 板書計画

